

香港の日本語学習者減少の要因

－調査報告－

Reasons for the decline number of Japanese language learners in Hong Kong

- Survey report -

宇田川 洋子、李 夢娟、李 澤森、劉 礪志

香港日本語教育研究会

要旨

本報告は、過去数年香港の日本語教育機関で問題となっている日本語学習者の減少の要因を探ることを目的として実施した調査の報告である。

調査は「日本のイメージ」「将来の学習者数増減予想とその理由」「日本の自然災害や原発事故、政治関係、経済問題などの学習意欲や日本へ行くことへの影響」「日本語学習をやめたいと思ったことがある人の割合とその理由」「日本語学習の目的」に関して行った。

この結果、現在日本語を学習する人については政治や経済問題は学習意欲にそれほど影響していないが、仕事や学業の忙しさ、日本語上達の遅さ、会話練習の少なさなどの理由で日本語の勉強をやめようかと思ったことがあるということがわかった。また、韓国語ブームや地震・原発への不安、政治や経済の問題などが新たな学習者の減少に影響している可能性があることがわかった。

キーワード:

香港、日本語学習者、減少、学習意欲、学習目的

香港の日本語学習者減少の要因 — 調査報告 —

宇田川 洋子、李 夢娟、李 澤森、劉 礪志
香港日本語教育研究会

1. はじめに

香港では、日本語能力試験（以下、JLPT）の応募者が、2009年の20,637人を最高に、減少の傾向にある（表1）。また、香港の日本語学習者全体の減少も、多くの教育機関から報告されている。そこで、香港日本語教育研究会（以下、研究会）のJLPT実施委員会では、2012年11月に香港の日本語学習者を対象に調査を行い、何が減少の要因になっているのかを探ろうと試みた（宇田川ほか、2013）。この調査から、日本語学習者の中に、韓国語学習に興味を持つ人が増えていることや、日本での地震や原発事故に対する不安を持つ人が多いことなどがわかってきたが、政治や経済の影響など、いろいろな面で明確にできなかった部分もあった。

また、2012年の国際交流基金（以下、基金）の調査でも、香港の日本語学習者数は、2009年の28,224人から22,555人と、20%ちょっと減少したとされている（基金、2013）。

このため、研究会では、前回の調査に続いて日本語学習者数の減少を探る調査を実施することにした。今回は、JLPTの受験を辞めた理由よりも、日本語学習に注目し、前回と同じ質問を2種、新しい質問を2種という構成にした。

表1 香港・マカオ地区における JLPT 応募者数の変化 研究会調べ（注1）

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
人	11551	13711	15546	17561	20637	14559	14589	12896	12546

2009年以降は年2回（7月および12月実施分）の応募者合計

2010年以前は1-4級、2010年以降はN1-N5応募者の合計

2. 目的

本調査は、次の5つの点について聞くことによって、香港の日本語学習者の意識を理解することを目的とした。

- (1) 日本に関するイメージの変化
- (2) 香港における将来の学習者数の予想とその理由
- (3) 日本の自然災害や原発事故、政治関係、経済問題などの学習意欲や日本へ行くことへの影響
- (4) 日本語の勉強をやめたいと思ったことのある人の割合とその理由
- (5) 日本語学習の目的

注1：香港日本語教育研究会ウェブページ「日本語能力試験」の「統計資料」より
<http://www.japanese-edu.org.hk/>（2013年8月1日）

(1) と (2) は前回の調査 (宇田川ほか、2013) でも同じ質問をしているが、前回の結果を見て、追加した項目もある。また、具体的な回答を得るために (3) を、また、日本語学習についての (4) (5) を新たに加えた。

前回の調査では「友人や知人に JLPT を受験しようと思っていたがやめた人がいたか」という質問を設けたが、この質問で「はい」と答えた場合の理由が「申し込みの期限を逃した」「自分の実力に自信がない」など、日本語学習者減少の要因とはあまり関連性が高くないものが多かったと判断したので、今回は外した。

3. 先行文献と 2012 年調査の関係

- 1) 「はじめに」に書いたように、香港や世界における日本語学習者数のデータは、3年ごとに実施されている基金の海外日本語教育機関調査の数字を参考にした。
- 2) 香港における JLPT 応募者や受験者、その属性に関するデータは、試験の香港における実施機関である研究会が、毎年発行する論文集「日本學刊」で報告している (阮、2010、阮、2011、劉、2012、劉、2013)。
- 3) 香港の日本語学習の目的に関する先行研究としては、基金 (2011)、木山ほか (2011) などがあり、本調査の質問 (日本のイメージ、学習目的) の回答選択肢を作成する参考にした。
- 4) 香港の日本語学習者が日本語学習をやめたいと思ったときの理由に関しては、瀬尾 (2011) や瀬尾ほか (2012) の研究があり、本調査の選択肢を作成する参考にした。

4. 調査方法

- 1) 対象者：香港の日本語学習者
- 2) 依頼方法：2013年6月に香港日本語教育研究会が JLPT 応募者 (N3 と N5 の応募者のみ) を対象として実施した調査活動のために集まった学習者に、印刷した調査用紙を配布し口頭で依頼した。
- 3) 調査方法：協力者は調査用紙に直接記入する方法で回答し、研究会の担当者が回収した。
- 4) 集計方法：表計算機能のあるコンピュータープログラムにデータ入力し、集計した。記述式の場合、中国語で書かれたものは日本語訳し、直接、表に入力した後でカテゴリー分けなどを行った。

香港の日本語学習者減少の要因
－調査報告－

5. 集計結果

5. 1 調査協力者

受験者総数 778 人

表 2 : 日本語のレベル

N3	N5
392 人 (50.4%)	386 人 (49.6%)

本調査の回答者が N3 と N5 の応募者に限られているのは、前回の調査同様、香港日本語教育研究会が 2013 年 7 月の JLPTN3 と N5 の応募者が別件の調査のために集まった機会を利用して本調査を行ったためである。

表 3 : 年齢層

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	総数(人)
N3	15.3%	59.7%	14.8%	8.7%	1.5%	392
N5	19.2%	47.2%	21.5%	9.6%	2.6%	386
合計	17.2%	53.5%	18.1%	9.1%	2.1%	778

5. 2 回答の集計結果

5. 2. 1 日本に関するイメージとその変化

5. 2. 1. 1 日本と聞いて思い浮かべる言葉

まず、「日本と聞いて思い浮かべる言葉を 3 つ書いてください。」に記述式で回答してもらった。中国語による回答は日本語に翻訳し、カテゴリ別に整理した。例えば、寿司や刺身は 1 つの項目「食品」としてまとめた。この結果、回答の多かったカテゴリ上位 10 項目をあげると、「食品」(52.6%) が突出して多く、次に「アニメ」(24.8%)、「観光」(23.4%)、「桜」(17.6%)、「景色がいい」(12.1%)、「ドラマ」(9.8%)、「ショッピング」(8.7%)、「料理」(8.2%)、「マンガ(コミック)」(8.0%)、「日本語」(7.7%) となった。これに続くのが「文化」「富士」「東京」「着物」「音楽」だった。このうち上位 6 位までは N3、N5 とも順位が同じだった。

N3 と N5 で順位に開きが見られたものは「マンガ」(N3 は 7 位、N5 は 12 位)、「ショッピング」(N3 は 11 位、N5 は 7 位)、「東京」(N3 は 15 位、N5 は 9 位) だった。また、上位 20 項目のうち N3 にあって N5 にないものは「温泉」「アイドル」「神社やお寺」で、N5 にしかないものは「綺麗」「ラーメン」「ゲーム」だった。

5. 2. 1. 2 日本のイメージの変化

次に、「あなたの日本に関するイメージは以前と比べて、最近変わりましたか。」という質問で、「全体」およびいろいろなカテゴリについてのイメージの変化を調査した。回答は「かなり向上した」、「少し向上した」、「変わらない」、「少し低下した」、「かなり低下した」の5つの選択肢から選んで答える。結果は以下のとおりだった。

表4：日本の全体的イメージ（全体および級別）

	かなり向上	少し向上	変わらない	少し低下	かなり低下	総数	無回答
合計	9.3%	31.6%	37.8%	19.7%	1.5%	775人	3人
N3	7.2%	34.1%	40.0%	16.7%	2.1%	390人	2人
N5	11.4%	29.1%	35.6%	22.9%	1.0%	385人	1人

2012年の調査（宇田川ほか2013）では、N2、N4、N5の回答者の総計が、かなり向上8%、少し向上28%、変わらない41%、少し低下21%、かなり低下2%であった。わずかではあるが、2013年のほうがイメージが向上したほうの割合が増え、低下したほうが減っている。

次に、年代ごとに分けてみると（表5）、30代から50代グループはイメージの低下が著しい。反対に、10代では「かなり向上」と「少し向上」の合計が52%と半数以上。N5のほうが低下が多い数字になったのは、N5のほうが30代、40代の人が多いためと考えられる。

表5：日本の全体的イメージ（年代別）

	かなり向上	少し向上	変わらない	少し低下	かなり低下	総数	無回答
10代	14.9%	36.6%	29.9%	17.9%	0.0%	134人	1人
20代	7.7%	31.7%	40.9%	17.8%	1.4%	416人	2人
30代	10.6%	27.0%	36.2%	25.5%	0.7%	141人	0人
40代	7.0%	26.8%	38.0%	22.5%	5.6%	71人	0人
50代	0.0%	43.8%	31.3%	18.8%	6.3%	16人	0人

続いて、12の日本に関するイメージについて、全体のイメージと同じ5つの選択肢から選んでもらった（表6）。表の項目名は質問を短縮したものあるいは代表したものを、本文には短縮形を質問の後に（ ）で示した。また、N3とN5を別々に集計してみたところ、「全体」同様、級による大きな特徴はなく、合計の場合とほぼ同じ傾向が見られた。

香港の日本語学習者減少の要因
－調査報告－

5つの選択肢のうち「向上」のどちらかを選んだ人が最も多かった項目は、「日本の全体的イメージ（全体）」「観光地・旅行先としての日本（観光）」「日本料理や日本製の食べ物（料理）」「日本の文化（マンガ、歌、アニメを含むテレビ番組など）（ポップ）」「ファッション」「日本の科学技術（技術）」の6つ。

イメージが低下したという選択が最も多かったのは「日本の政治（政治）」「日本の経済（経済）」の2つで、いずれも50%を超える回答者がイメージの低下を選んでいる。「日本の政治」、「日本の経済」、「日本の科学技術」の3つのカテゴリーは、前回の調査の際、これらの項目が日本語学習者の減少に影響しているのではないかという仮説が出てきたため、今回の調査で新たに加えた項目である。これによって、「日本の政治」「日本の経済」に対するイメージ低下がより明確になった。「日本の科学技術」はイメージの低下は顕著ではなかったが、これは原発事故との関連性が明確でなかったためと考えられる。

表6：日本に関するイメージの変化（カテゴリー別）

	かなり 向上	少し 向上	変わら ない	少し 低下	かなり 低下	無回答
日本の全体的イメージ	9.3%	31.6%	37.8%	19.7%	1.5%	3人
観光地・旅行先として	23.4%	41.8%	23.3%	9.9%	1.5%	1
留学先として	11.5%	26.5%	47.2%	12.7%	2.1%	1
就職先として(日本での就職)	7.2%	23.4%	45.0%	20.1%	4.3%	3
就職先としての香港の日系企業	7.9%	29.0%	48.1%	13.8%	1.2%	3
取引先としての日本の企業や 香港の日系企業	5.4%	25.8%	58.1%	9.7%	1.0%	2
日本料理や日本製の食べ物	23.5%	44.0%	25.7%	6.0%	0.8%	0
日本の文化（漫画、歌、アニメを 含むテレビ番組など）	28.4%	36.4%	22.4%	12.1%	0.6%	1
日本の文化（文学や歴史）	13.5%	31.0%	47.2%	7.50%	0.8%	1
日本のファッション	16.8%	35.0%	37.9%	9.5%	0.8%	3
日本の政治	1.3%	7.5%	36.2%	40.9%	14.2%	1
日本の経済	2.3%	11.6%	34.2%	41.1%	10.8%	1
日本の科学技術	9.0%	32.0%	39.6%	17.6%	1.8%	0

また、2012年11月の調査結果（宇田川ほか2013）と同一の質問について結果が異なるかどうかを見たいと考え、両調査に共通するN5応募者だけの数字（2012年238人、2013年386人）を、両調査に共通したカテゴリーに関してだけ比較した。この結果、「観光地・旅行先としての日本」や「留学先としての日本」のイメージについて「向上」したと答えた人の割合の増加が著しい。一方、日本料理や日本製の食べ物は、2013年のほうが「向上」も多い一方、「低下」の割合も少し増えている。

表7：2012年調査と2013年調査の比較（N5レベル）

N5レベルの比較	かなり 向上	少し 向上	変わら ない	少し 低下	かなり 低下
2013 観光地・旅行先として	21.8%	44.0%	23.1%	9.8%	1.3%
2012 観光地・旅行先として	9.2%	26.1%	41.6%	21.4%	1.7%
2013 留学先として	11.7%	26.2%	47.0%	12.7%	2.3%
2012 留学先として	5.5%	22.7%	48.7%	19.7%	3.4%
2013 就職先として(日本での就職)	7.0%	21.7%	47.0%	20.4%	3.9%
2012 就職先として(日本での就職)	5.0%	20.2%	45.4%	22.7%	6.7%
2013 日本料理や日本製の食べ物	24.6%	42.2%	25.6%	6.7%	0.8%
2012 日本料理や日本製の食べ物	16.0%	33.2%	46.6%	3.8%	0.4%

5. 2. 2 日本の自然災害や原発事故、政治関係などの学習意欲や渡日への影響

前回の調査で、2011年の東日本大震災とそれに伴う原発事故、将来の地震に対する不安、領土問題などを含む政治関係などが日本語学習者減少の要因になっている可能性が感じられたため、今回の調査では、イメージ調査に項目として加えるだけでなく、より具体的な質問を設けた。

質問は8つで、A強くそう思う（表では「強く」）、B少しそう思う（少し）、Cあまりそう思わない（あまり）、D全くそう思わない（全く）、Eわからないの選択肢の中から一つを選ぶ形式とした。結果をパーセンテージで示したものが表8である。

結果を見ると、地震や原発事故の不安のために自分の学習意欲が低下したかという問いに「強くそう思う」「少しそう思う」とした人は合計10%以下だったが、政治問題のために学習意欲がしたかという質問に「そう思う」のどちらかを選んだ人は合計で16%近くだった。

一方、地震や原発事故のために日本行きを慎重に考えると答えた人は多く、特に長期滞在については50%を超えている。「慎重に考える」は「行かない」「日本内の場所を考える」など意味に幅があるが、あまり選択肢を狭めるより答えやすいと考え、中国語で類似の意味になるということだったので使用した。また、政治的関係が良くないために日本旅行や留学を慎重に考えるとする人は30%前後となっている。

香港の日本語学習者減少の要因
－調査報告－

また、年齢別では、前の2つの質問で肯定的な回答が多かった10代だが、前の質問ほど目立った特長は見られなかった。

表8：日本の自然災害や原発事故、政治関係などによる学習意欲や渡日への影響

質問項目	強く	少し	あまり	全く	わからない	無回答
① 2011年3月の東日本大震災の後、日本語学習意欲が低下した。	1.2%	6.1%	31.9%	57.6%	3.1%	13人
② 将来日本で大きな地震があるかもしれないと聞いて、日本語学習意欲が低下した。	1.0%	5.6%	27.1%	62.9%	3.4%	8人
③ 福島第1原発の事故について知って、日本語学習意欲が低下した。	1.7%	8.3%	27.1%	60.1%	2.7%	8人
④ 領土問題など中日の政治問題で、日本語学習意欲が低下した。	2.6%	13.3%	29.0%	52.3%	2.7%	10人
⑤ 地震や原発事故など日本の安全性に不安があるので、旅行で日本に行くことは慎重に考えたい。	12.4%	38.4%	25.7%	22.6%	0.9%	9人
⑥ 地震や原発事故など日本の安全性に不安があるので、留学など長期に日本に行くことは慎重に考えたい。	17.8%	36.8%	23.0%	18.8%	3.6%	8人
⑦ 領土問題など中国と日本の政治的関係があまり良くないので、旅行で日本に行くことは慎重に考えたい。	5.2%	21.4%	37.1%	34.5%	1.8%	7人
⑧ 領土問題など中国と日本の政治的関係があまり良くないので、留学など長期に日本に行くことは慎重に考えたい。	7.5%	24.4%	32.0%	31.8%	4.3%	7人

5. 2. 3 将来の日本語学習者数に関する予想とその理由

将来の香港の日本語学習者の数について、増えると思うか、減ると思うかを聞いたところ表9のような結果になった。レベル別に見ると、「増える」とした人はN5のほうがN3より割合が多く、「減る」としたのはN3の割合のほうがやや多かった。参考までに2012年の数字も示しておく（2012年の報告では小数点以下を四捨五入していたが、ここでは比較のために小数点以下1位まで表示した）。

表 9 : 将来の学習数の予想(全体および級別)

	増える	減る	変わらない	合計	無回答
2013年 N3+N5	47.0%	31.9%	21.1%	778人	0
2013年 N3	45.7%	34.4%	19.9%	392人	0
2013年 N5	48.4%	29.3%	22.3%	386人	0
2012年 N2+N4+N5	45.7%	32.5%	21.8%	634人	0

年代別では、表 10 にあるように、「増える」とした人の割合が最も多かったのが 10 代の 60%で、反対に最も少なかったのが 30 代の 31%と大きな開きが見られた。また、「減る」の割合が多かったのが 50 代で 56%、次いで 40 代の 42%、最も少ないのが 10 代の 24%だった。また、「変わらない」の割合が最も多かったのは 30 代の 31%だった。

表 10 : 将来の学習数の予想(年代別)

	増える	減る	変わらない	合計
10代	59.7%	24.6%	15.7%	134人
20代	49.5%	29.6%	20.9%	416人
30代	31.2%	37.6%	30.5%	141人
40代	42.3%	42.3%	15.5%	71人
50代	31.3%	56.3%	12.5%	16人

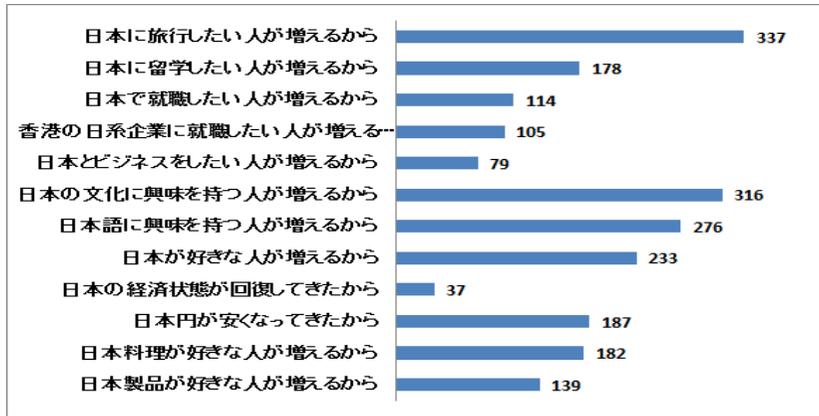
上記の答えに続いて、そう思う理由を複数選択可として選んでもらった。肯定的な理由 12 件、否定的なもの 13 件の選択肢から選んでもらった。

集計の結果を肯定的な理由、否定的な理由に分けて、表にしたのが図 1、図 2 である。「変わらない」とした人が両方の理由をどちらでも選べるため、割合ではなく、それぞれの項目を選んだ人数をそのまま記した。

肯定的な理由のうち選んだ人が多かったのは、多い順に「日本に旅行したい人が増えるから」「日本の文化に興味を持つ人が増えるから」「日本語に興味を持つ人が増えるから」「日本が好きになる人が増えるから」で、この順位は N3、N5 共通であった。「日本の経済状態が回復してきたから」が最も少なかったが、円安を理由として選んだ人は 5 番目に多かった。

香港の日本語学習者減少の要因
 - 調査報告 -

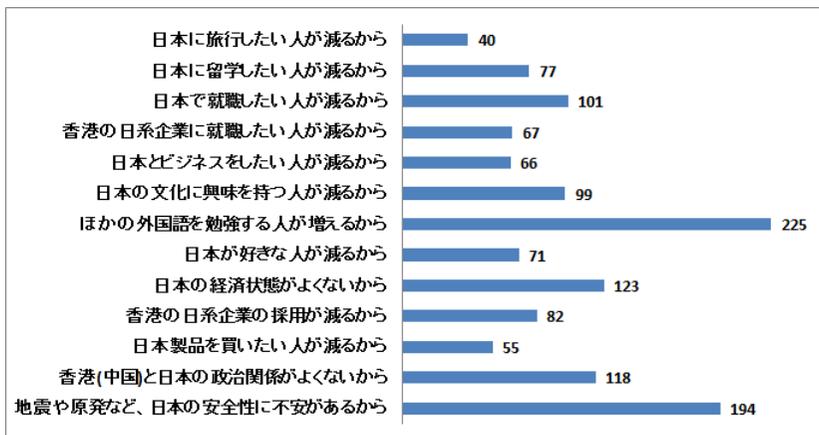
図 1 : 日本語学習者が増える・変わらないと予想する肯定的理由



否定的な理由で最も多かったのが「ほかの外国語を勉強する人が増えるから」で、この選択肢を選んだ人には何語が増えると予想されるかを書き込んでもらったところ、韓国語 199、北京語 10、スペイン語 10、英語 1、アラビア語 1 と、韓国語が圧倒的に多かった。理由の 2 番目以下は、「原発など、日本の安全性に不安があるから」、「日本の経済状態がよくないから」、「香港（中国）と日本の政治関係がよくないから」と続いている。

ところで、5.2.2 で回答者本人の日本語学習意欲について聞いた際には、日本の安全性への不安や政治・経済の問題は、自身の日本語学習にはあまり影響がないという結果が出ていたが、将来の日本語学習者増減に関しては、要因の一つとして捉えられていることがわかる。

図 2 : 日本語学習者が減る・変わらないと予想する否定的理由



「その他」を選んだ人は 68 人で、記述の中には選択肢に該当する項目があるものも含まれていたが、回答者の選択を尊重して「その他」に残した。否定的な理由では、韓国文化の人気上昇 26 件、インターネットの翻訳機能などの普及、日系企業が日本語より英語や中国語ができる人を求めるから、などがあつた。また、肯定的なものでは、就職に役立つ、日本文化の根強い人気などをあげる人がいた。

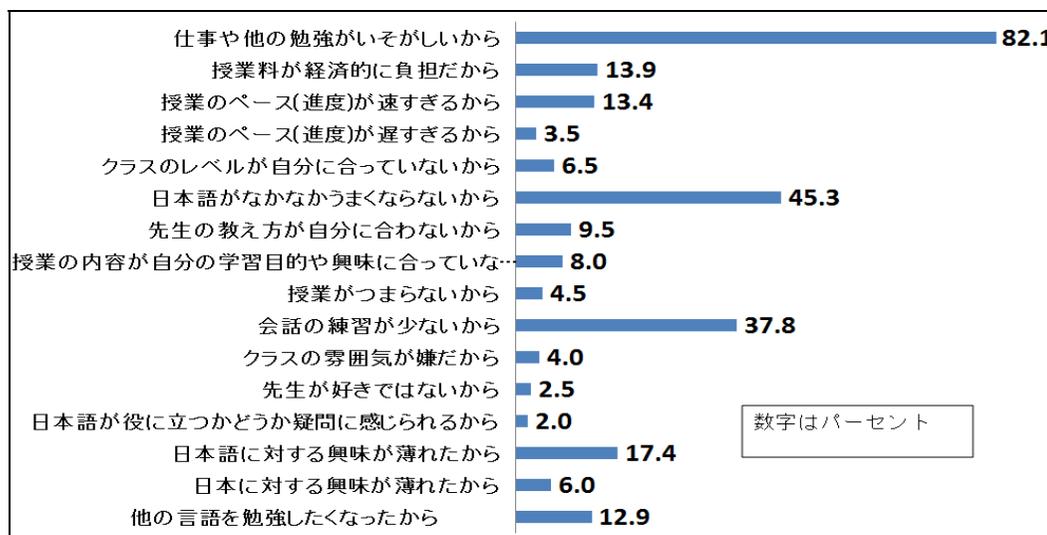
5. 2. 4 日本語学習をやめたいと思ったことがあるか

この質問に対して、「はい」と答えた人は、無回答 10 人を除く 768 人中 201 人(26.2%) だった。N3 グループは「はい」と答えた人が 23.7%、N5 は 28.3%と N5 のほうが「日本語学習をやめたい」と思ったことがある人の割合が多かった。年代別に見ると表 11 のように、「やめたいと思ったことがある」割合が最も多いのが 40 代で、また、10 代、20 代のグループは約 23%と割合が少ない。

表 11 年代別 日本語をやめたいと思ったことがある割合

	10代	20代	30代	40代	50代
日本語学習をやめようと思ったことがある人の割合	23.1%	23.1%	30.5%	36.6%	31.3%
無回答	1	2	3	3	1

図 3：日本語をやめたいと思った理由



香港の日本語学習者減少の要因
－調査報告－

その理由について聞いてみると図5のようになった。突出して多かったのが「仕事や他の勉強が忙しくて日本語の勉強に時間が割けないから」で、やめたいと思ったことがある201人中約82%の人がこの理由を選んでいる。これに続いて多いのが「日本語がなかなかうまくならないから」、「会話の練習が少ないから」だった。

また、「他の言語を勉強したくなったから」という人に実際にどのような言語を勉強したいと思ったのがを挙げてもらったところ、韓国語が15名、スペイン語が5名、英語1名、フランス語2名、イタリア語1名だった。

「その他」の記述は5件で、このうち「レベルが合わない」というカテゴリーに含めることができるものが3つあり、さらに「練習する機会がない」「家族からのプレッシャー」があったが、そのまま「その他」として扱った。

年代別に集計をしたのが表12である。これを見ると、10代の傾向がかなりほかの年代と異なっており、理由がさまざまであることがわかる。一方で、30代から50代にかけては、上位3つの理由にかなり集中している。

表12 日本語をやめたいと思った理由

	10代	20代	30代	40代	50代
仕事や他の勉強がいそがしいから	77.4%	88.5%	81.4%	69.2%	80.0%
授業料が経済的に負担だから	19.4%	14.6%	16.3%	3.9%	0.0%
授業のペース(進度)が速すぎるから	9.7%	12.5%	18.6%	11.5%	20.0%
授業のペース(進度)が遅すぎるから	6.5%	4.2%	2.3%	0.0%	0.0%
クラスのレベルが自分に合っていないから	12.9%	5.2%	7.0%	3.9%	0.0%
日本語がなかなかうまくならないから	35.5%	40.6%	46.5%	61.5%	100.0%
先生の教え方が自分に合わないから	9.7%	9.4%	11.6%	11.5%	0.0%
授業の内容が自分の学習目的や興味に合っていないから	12.9%	8.3%	4.7%	7.7%	0.0%
授業がつまらないから	6.5%	5.2%	2.3%	3.9%	0.0%
会話の練習が少ないから	25.8%	29.2%	46.5%	65.4%	60.0%
クラスの雰囲気が嫌だから	6.5%	5.2%	0.0%	3.9%	0.0%
先生が好きではないから	6.5%	2.1%	2.3%	0.0%	0.0%
日本語が役に立つかどうか疑問に感じられるから	22.6%	25.0%	7.0%	19.2%	20.0%
日本語に対する興味が薄れたから	29.0%	19.8%	9.3%	11.5%	0.0%
日本に対する興味が薄れたから	12.9%	6.3%	2.3%	0.0%	20.0%
他の言語を勉強したくなったから	25.8%	11.5%	7.0%	3.9%	40.0%

5. 2. 5 日本語学習の目的

木山ほか（2011）が2010年に香港の学習者を対象に実施した調査によれば、選択者が多い順に「日本語でコミュニケーションができるようになりたい」「日本語自身に興味がある」「日本が好きだから」「日本に旅行に行くため」が上位を占めている。

そこで、本調査の回答者グループに関しても同じ質問をしてみた。質問は木山ほか（2011）の選択肢のうち、選択の割合が10%に満たないものは省略し、必要があれば「その他」で記述できるようにした。表6は、回答者778人中それぞれのカテゴリーを選んだ人数をパーセンテージで表したものである。

表 13 日本語学習の目的

質問項目	割合
日本語でコミュニケーションができるようになりたい	91.1%
日本語そのものに興味がある	88.3%
日本へ旅行に行くため	83.2%
日本が好きだから	81.0%
日本の文化（アニメ、マンガ、ポップカルチャーなど）を知りたい	74.2%
日本の食べ物について知りたい	54.1%
日本の文化（文学や歴史）を知りたい	50.8%
日本のファッションについて知りたい	40.1%
国際理解・異文化理解の一環として	35.9%
日本で働きたいため	31.5%
日本との親善・交流のため	28.4%
就職のため	23.0%
留学のため	20.7%
昇進のため	16.3%
日本の科学技術について知りたい	15.9%
日本の政治・社会経済について知りたい	12.5%
大学や資格試験の受験準備のため	12.5%
今の仕事のため	8.7%
家族・親族等周囲の人に勧められたため	6.0%

木山ほか（2011）と本調査を比較すると、上位9位までは同じ順位となったが、回答者の日本語レベルが異なることなどから詳細な比較はここではしない。

また、「その他」には17の記述があり、「仕事のため」「日本へ留学したい」「テレビ番組を理解したい」など選択肢の中に該当する回答があるものが12件あったが、回答

香港の日本語学習者減少の要因
—調査報告—

者の選択を尊重し、そのまま「その他」として扱った。選択肢にない回答としては、「日本人の友達がいるから」2件や「日本人を知りたい」「日本人と友達になれる」各1件のように日本人との交流を示したもののほか、「大学で日本語を専攻したい」「日本語教師になりたい」が各1件だった。

6. 終わりに

今回の調査からわかったことをまとめてみる。

香港で今、日本語を学習している人たちに関しては、中日の政治問題や日本経済の低迷、地震や原発事故は、学習意欲にはそれほど大きな影響を与えていないが、留学など、日本へ行くことについては影響を与えたと見られる。また、日本語学習をやめようかと考えるのは、忙しさが最も大きな要因になっているが、日本語上達が遅く感じられること、会話の練習が少ないことなど、日本語学習に関連することが挙げられている。

また、地震や原発への不安や政治問題、韓国語学習の人気の、新たに日本語を学習し始める人の数の減少に関係している可能性がある。

これらの結果を見ると、新たに学習を始める人と現在の学習者に対してでは異なるアプローチが必要であり、日本語学習の維持拡大に関しても、このような点に留意すべきではないかと思われる。

【謝辞】

第1回調査、第2回調査共に、日本語能力試験協力委員会のメンバーである以下の方々には貴重なご提案やご助言をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

(名字の日本読みあいうえお順)

菊地 斉 元在香港日本国総領事館広報文化部長

趙 達榮 香港日本文化協会主席

陳 志誠 元香港城市大学教授

梁 安玉 香港日本語教育研究会会長

余 均灼 元香港中文大学教授

参考文献

- 宇田川洋子・李夢娟・李澤森・劉礪志（2013）「香港の日本語能力試験受験者減少の要因を探る」
『日本學刊』第 16 号, 233-246
- 木山登志子・中野貴子・周宏陽・上田早苗・望月貴子・蘇凱達・青山玲二郎（2011）「2010 年香港
日本者背景調査報告」『日本學刊』第 14 号, 176-195
- 阮亦光（2010）「2009 年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告」『日本學刊』第 13 号, 200-209
- 阮亦光（2011）「2010 年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告」『日本學刊』第 14 号, 196-209
- 国際交流基金（2011）「日本語教育機関調査・2009 年 海外の日本語教育の現状」
- 国際交流基金（2013）「日本語教育機関調査・2012 年 海外の日本語教育の現状」くろしお出版
- 瀬尾匡輝（2011）「香港の日本語生涯学習者の動機付けの変化―修正版グラウンデッド・セオリー・
アプローチを用いた分析から探る―」『日本學刊』第 14 号, 16-39
- 瀬尾匡輝・陳徳奇・司徒棟威（2012）「なぜ日本語学習をやめてしまったのか―香港の社会人教育
機関の学習者における動機減退要因の一事例―」『日本學刊』第 15 号, 80-99
- 香港日本語教育研究会（2013）「日本語能力試験・統計資料」
<<http://www.japanese-edu.org.hk/>>（2013 年 8 月現在）
- 劉礪志（2012）「2011 年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告」『日本學刊』第 15 号, 136-148
- 劉礪志（2013）「2012 年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告」『日本學刊』第 16 号, 247-261